



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2020年
5月25日
発行

第35回 「見直される国家の役割」

～ 高まる医療の重要性 ～

初めに

「ディストピアの入り口附近と若者も感じ始めて手洗いをする」この歌は、5月14日の読売歌壇（読売新聞の短歌投稿欄）に掲載された宮崎雄氏の短歌です。のどかな短歌欄にいきなり物騒な言葉が出て来てドキリとさせられましたが、世相をよく反映しているように思います。今回は金融市場とはあまり関係のない話になりますが、ディストピアについて考えてみます。なお、「ディストピア」はユートピアの逆の状態を指す言葉で「悪い世界」といった意味です。

一人一人の注意と努力がコロナの被害を食い止め

選者はこの歌について、「新型ウィルスの感染拡大が深刻化し関心の薄かった若者にも危機意識が広がっている」と解説しています。また「入口附近」を「鋭い」と評していますが、この部分は手を洗うことによって若者がディストピア行きを免れたことを示していると思います。当レポートの、第32回「日本の新型コロナ対策」で述べたように、私は日本の新型コロナによる被害が他国に比べて少ない理由は、日本人一人一人の注意と努力にあると見ていますが、それを示すこの歌は良い作品と思っています。

監視国家と独裁国家

ディストピア小説によく登場するのが、監視国家や独裁国家です。ただ両者とディストピアの間には違いがあります。ディストピアは最悪の状況という定義なので、良いディストピアはあり得ません。しかし、場合によっては良い監視国家や、良い独裁国家はありえます。例えば、今回の新型コロナについて言えば、中国は徹底的に国民の状況を把握することにより新型コロナを収束させました。中国政府の取った手法は監視国家と呼ばれてもおかしくないと思いますが、大きな効果があったことは事実です。この事例において中国は良い監視国家だったと言えます。

良い独裁国家の事例が、東南アジアの開発独裁です。1980年代後半から東南アジア各国は高度成長期入りしましたが、その理由の一つが開発独裁です。マレーシアのマハティール前首相など、独裁色の強いリーダーが抵抗を押し切って開発を進めたことが高度成長の一因になりました。これは良い独裁国家と言えます。

国家の役割の見直し

今後新型コロナが落ち着けば、国家の役割の見直しについての議論が高まると思いますがそれについてはまた別の機会にお話させていただきます。

(伊藤計劃氏の世界)

ところで、ディストピア小説も手掛ける伊藤計劃氏の作品に「ハーモニー」という作品があります。この作品は、病気が根絶された世界を舞台にした近未来小説で、作品の中では病気や医療などが大きな要素を占めています。今回の新型コロナによって、改めて医療や健康の重要性は格段に増したと思います。伊藤氏は既に亡くなっていますが、現在の世界を見てどう思うかご意見を伺いたいところです。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES CO., LTD. 金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社) 加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
TEL:075-221-9390(本店営業部) 指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はお断りください。